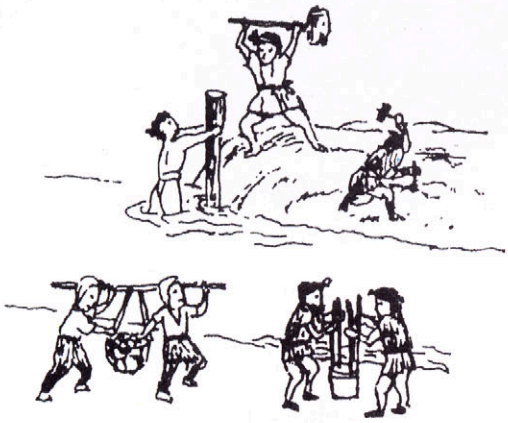
(3) 新堀堰を開く（会津高田町）

明和６年（1769年）は，これまでにないひどい干ばつの年でした。会津高田町では川の水がかれ，井戸や清水も水が出なくなり，飲む水にさえ困るほどでした。宮川に造られていた高田堰や新堰にも水がなくなり，用水が引けなくなった田んぼでは，土が乾燥して割れ，いねはかれてしまうものが多く，大凶作になりました。



▲そのころの工事の様子

「お米がとれなくては，私たちは死んでしまう。新しい堀を造って田んぼに水を引かなくては。」と，高田の組郷頭たちは，これまで使っていた宮川とは別に，新たな水源をもとめました。そして，藤川地区にある「稲岡堤」を買い取り，そこから高田まで水を引く「新堀」の工事に取りかかりました。

工事は，若い人はもちろんお年寄りまで何千人もの村人が，くわやもっこを使い三日三晩をかけて行いました。新堀堰のおかげで水不足の心配がなくなり，お米がたくさんとれるようになりました。今でも，新堀は一部が大切なかんがい用水として使われています。

▲新しい新堀堰